



安心の地域医療を支える

JCHO NEWS

Japan Community Health care Organization News



[特集]

JCHOにおける 現場の経営改善の取り組み

02 北海道東北地区事務所移転のご案内

北海道東北地区事務所 総務経理課 角田 美美子

【Information】 JCHO広報勉強会を開催します！

03 包括連携を締結

京都府立医科大学との連携／東京保健医療大学との連携

04 退任・新任のご挨拶

08 新任院長メッセージ

10 【特集】 JCHOにおける現場の経営改善の取り組み 「役職者としてのあるべき姿」

～部署間の関係性向上の場の創成～

大和郡山病院 診療放射線技師長 中尾 哲

12 【トピックス】 「骨粗鬆症センター」の立ち上げについて

船橋中央病院 整形外科医長 山下 正臣

薬剤部長会議 (TV会議) を開催して

～薬剤師を取り巻く環境変化に対応していく～

東京高輪病院薬剤部長 本部医療部医療課事業専門職併任 片山 歳也

14 【広報アラカルト】 当院におけるYouTube活用事例について

北海道病院 総務企画課 経営企画係長 土田 駿介

YouTubeを利用した医療者向け公開講座の取り組みについて

大阪病院 統括診療部長 島田 幸造

16 【JCHO GROUP】 施設一覧

北海道東北地区事務所移転の

ご案内

北海道東北地区事務所 総務経理課 角田 美美子



北 海道東北地区管理部は2022年4月1日に北海道東北地区事務所となり、高輪の本部から離れ、仙台病院内へ移転しました。

もともとJCHO発足当初は、北海道東北地区事務所として仙台市内において運営していましたが、その後の組織改編により2017年には北海道地区は北海道四国地区管理部へ、東北地区は当時の東日本地区事務所に属することとなり、いずれも事務所が高輪になりました。2020年度には再び北海道と東北地区が一緒の管理部となり、今回仙台病院内に地区事務所を構えることとなりました。事務所の移転に際して多大なご協力をいただきました村上地区担当理事、また仙台病院の職員の皆様に感謝申し上げます。

移転により管内病院との距離が物理的に近くなりましたので、今まで以上に連携を密に取り、病院運営が円滑に行えるよう支援に努めてまいります。

地区事務所を構える仙台病院は、昨年5月に新築移転した病院です（詳しくはJCHOニュース2021夏号をご覧ください）。新しい建物の中に事務所を入れていただき大変恐縮です。

末筆ではございますが、これまで北海道東北地区管理部の運営に関わっていただきました関係者の皆様、また移転にあたりご協力くださいました関係者の皆様にご場をお借りして御礼申し上げます。引き続きご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

Information

JCHO広報勉強会を開催します！

広報発信力をアップして病院内のつながり、地域とのつながりを強めましょう。



2022年度は、各病院の広報担当者を中心に広報やコミュニケーションスキルのアップに関心のある方を対象に、鹿野先生をお迎えし「広報勉強会」を開催します。全国どこからでもご参加いただけるようオンラインでの開催を予定しています。詳細や申し込み方法は、別途ご案内します。

【講師】 鹿野 由利子先生 (千葉大学医学部附属病院特任准教授)

【略歴】 2012年度より千葉大学医学部附属病院の特任准教授として病院広報室に勤務するほか、ちば医経塾の講師として病院広報戦略の3講義を担当。日本眼科医会広報顧問、静岡大学広報アドバイザーなども務める。

【賞歴】 日本PR協会「PRアワードグランプリ」最高賞
国際PR協会「ゴールデン・ワールド・アワーズ」全体最高賞 など受賞

開 催 予 定

第1回 6月 病院が取り組む広報活動とは
～広報の基礎知識を学んで、自院の広報活動をセルフチェックしてみよう～

第2回 7月 患者さん向けチラシや広報誌の作り方
～これでもう悩まない！わかりやすく作るコツを学ぶ～

第3回 9月 皆に伝わる病院内広報の勘所
～皆の注目を集める院内情報提供のコツを学ぶ～

第4回 10月 新聞やテレビで取材してもらう方法
～病院の取り組みを地元のニュースにしよう！リスク対応も学ぼう～

包括連携 を 締結

京都府立医科大学と京都鞍馬口医療センター 双方の医療機能を生かした効率的な医療連携

JCHOと京都府健康福祉部長立ち合いの下、京都府立医科大学と包括的連携に関する協定書を2021年11月26日に締結しました。

この協定は、京都府の地域医療構想の下、京都府立医科大学附属病院と京都鞍馬口医療センター双方の医療機能を生かし、効率的な医療連携を図ることにより、より多くの患者様に適切な医療を提供することを目的としています。

<具体的な連携内容>

- 1) 地域医療に貢献するために必要な医療機能の分担・強化に関すること
- 2) 医療・介護の施策の推進や地域の課題解決のための知識資源、人的資源、物的資源の活用に関すること
- 3) 学術研究及び人材育成に関すること

<京都府立医大との連携方針>

- 1) 高度急性期医療を担う京都府立医科大学附属病院等と地域のクリニックと連携して地域医療における効率的な医療連携体制を築いてまいります。
- 2) 医療人材の育成及び学術の振興では、大学では賅えない分野の教育の一翼を担うこととし、京都府全体の医療人材の育成を含めた協力関係を築いてまいります。



京都府立医科大学・JCHO出席者・京都府健康福祉部長

東京医療保健大学と医療・教育・研究に 関わる連携と交流の促進

JCHOと学校法人青葉学園東京医療保健大学(以下「東京医療保健大学」)は、2021年12月3日付でJCHO本部において調印式を行い、医療・教育・研究等に関わる連携・交流を促進する包括協定を締結しました。今後、JCHOと東京医療保健大学は、医療・介護の質の向上や、エビデンスに基づく医療提供システムの再構築などの各種課題解決のための協働事業の推進に迅速に対応してまいります。

<本協定のねらい・目的>

地域医療機能推進機構と東京医療保健大学は、2016年11月から協働事業協定に基づき、地域のニーズに沿った質の高い医療の提供に貢献できる看護師等の育成や確保を推進してきました。

今後はポストコロナにおける地域医療の課題やニーズを見据えて的確に対応するため、看護師等の育成や確保のみならず、医療・介護の質の向上やエビデンスに基づく医療提供システムをあらためて構築することが必要となります。これらの課題に対応する事業を新たに協働し推進するため、既存の協働事業協定をさらに発展させた包括的連携協定書を締結しました。

具体的には、JCHOの職員が勤務を続けながら東京医療保健大学の学生として在籍し、医療現場における課題解決のため、リスクマネジメント・医療保健データの活用・診療看護師(NP)・特定行為が実施できる看護師などの看護分野で研究を行うことにより、各種の課題解決に資する人材の養成や共同研究を推進する予定です。



調印式の様子

連携事項の範囲

- 1) 地域のニーズに沿った質の高い医療の提供に貢献できる看護師等の育成や確保に関すること
- 2) 教育・研究・医療保健に関する人的資源の交流及び知的・物的資源の相互活用に関すること
- 3) 地域の保健・医療・福祉の機能向上に関すること
- 4) その他相互に連携・協力することが必要と認められる事項に関すること



尾身理事長 退任のご挨拶

尾身 茂



2022年3月31日をもってJCHOの理事長を退任することとなりました。RFO2年間とJCHO8年間の合計10年間、理事長を務めましたが、私に与えられた仕事は、色々と改善すべきところはあったかもしれませんが、大体できたのではないかと考えています。そして、2年近く前から、そろそろ次の世代にバトンタッチしたほうが良いと厚生労働省に伝えていました。

この10年間、職員の皆様には、現場で文字通り献身的な努力をしていただきました。JCHO発足は、社会保険病院、厚生年金病院、船員保険病院の3つの団体が民間の団体が公的機関になるという社会的実験でしたので、現場の職員、特に院長たちには、今までの団体での経営方針、ガバナンス、待遇など、自由が奪われるのではないかと懸念、不安があったと思います。そのような中、率直に皆さんの問題意識、もっと端的に言えば不満を十分聞き、我々の思いも色々な場面で伝えられた。結果すべてが解決したわけありませんが、自由に意見を交換することができたことが、この10年間で一番よかった事だと思います。

私には2つのミッションが与えられていました。1つは、交付金が入らない状況で自律的に経営をすること。経常収支が連続してプラスになったことは、職員の皆さんの地域医療への真摯な尽力、貢献があったからだと思います。もう1つは、独法に求められる役割。地域医療への貢献、医師不足の地域への人材派遣、近年はコロナへの対応で本当に大変な思いをされたと思いますが、役割をしっかり果たしていただいた職員の皆様のことを誇りに持っています。また、RFOからJCHOに至るプロセスは山あり谷あり、一時はつぶされるのではないかと考えたこともあります。しかし船出をしてみると、北風や台風も来ましたが、JCHOは非常に誠実で、一生懸命で真面目な人たちの集まりなので、皆様の力で乗り越えられたと思います。

さて、私は、2022年4月より公益財団法人日本結核予防会で勤務します。WHOでも感染症対策に関わっていましたが、まだ結核による大人の死亡者がエイズやマラリアより多いため、日本の、世界の結核対策に関わりたいと思っています。

次のJCHO理事長は山本修一氏です。一年前から一緒に仕事をしてきましたが、私は安心して次に行けると確信しました。また、JCHOには大小さまざまな病院があり、経営が苦しい病院もあると思いますが、今まで以上に地域に求められ、期待にますます応えられる病院であってほしい。先に申し上げたように、JCHOには一生懸命で真面目な、優秀な人がたくさんいるので、実現できると確信しています。

職員の皆様が今まで以上にJCHOを愛して、さらに発展されることを祈っています。どうもありがとうございました。

JCHO 新理事長の山本修一です。
私からのメッセージは、
JCHOニュース夏号でお届けします。



退任理事の挨拶

この度、広報・コミュニケーション担当理事から、同じ担当のままですが、広報・コミュニケーション担当の理事長特任補佐に役職が変更になりました。この2年間はJCHOニュースでの様々な企画・執筆をはじめ、理事長からの発信、コミュニケーションに関するアドバイスや研修講師、リーダーシップ研修企画などを担いました。コロナ禍で緊迫していたJCHO内の空気をコミュニケーションを通じて少しでも和らげ、みなさんのモチベーションにつながっていたら幸いです。

今年度からは、JCHO内でのコミュニケーションやリーダーシップに関わる研修を開始し、よりよい医療を効果的に届けられる職場づくりに貢献したいと思います。また、JCHOの良さをより多くの方に知っていただくために、JCHO外への広報を強化し、各病院が地域や行政、マスメディアとの連携を図りやすくするお手伝いをしていきたいと思います。まず手始めに、本号でもご紹介するように広報勉強会を開催していく予定です。

これからもみながつながり一丸となって、質の高い医療を届けられるようコミュニケーションの一層の改善に努めていきたいと思っています。

2014年9月に東京高輪病院の初代院長に就任して以来、当院を地域に必要とされる地域に根ざした自立した病院とすべく、職員とともに工夫と努力を積み重ねて来たつもりです。初期の頃は「せんぼ」時代の、ある意味では「良き時代」の面影を引きずっている職員もおり、なかなか大変なこともありました。しかし、気持ちを切り替えて前向きに取り組んで下さる多くの職員に支えられてここまで来ることができたのは実に幸いなことだと思っています。このたび、3月末をもって退任することになりました。目指す病院の姿にはほど遠い姿で次期院長に引き継ぐことになったのは心苦しいことです。これも私の力不足と不徳のいたすところと実に申し訳なく思っています。

また、2018年からは東日本地区担当理事、2020年からは関東地区担当理事と北海道東北地区担当理事を兼務させていただきました。地区担当理事の経験は私にとっては貴重な経験となりました。1病院の院長では見ることの出来なかった景色を見させていただき勉強になりました。理事長をはじめ、本部の職員の皆様、地区管理部の皆様ならびに地区事務所の皆様に支えていただき、無事退任出来ることになったことに感謝いたします。ありがとうございます。JCHOの益々のご発展とJCHOで働く全ての職員の皆様のご健勝を願って退任の挨拶とさせていただきます。

2年間、近畿四国地区担当理事を務めさせていただきました。この2年間は院長としてだけでなく、地区担当理事としても新型コロナウイルス感染症との闘いでした。近畿四国地区はサイズ的にも機能的にもきわめて多彩な11病院を包括しています。そういう組織の中で、地区担当理事・地区事務所ができることは本部との間にたって、個々の病院がその個性・特性を活かして地域の要請に応えられるような医療活動を展開できるように支援していくことだろうと考え、活動をしてきました。新型コロナウイルス感染症の影響は当初の想像をはるかに超え、本部との間だけでなく病院間においてもフェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションをとることが困難でした。それでも私たちがインターネットを通じたコミュニケーションに慣れてきたこともあり、この半年～1年においてはそれなりにうまく活用してこれたのではないかと思います。今から振り返ると、もっといろいろできたのではないかと悔やまれることもあり、そこは皆さまの寛大な気持ちでご容赦いただきたいと思っています。末筆ながら、JCHOの益々のご発展および職員の皆さんの益々のご健勝を祈ります。在任中はいろいろとありがとうございました。



広報・コミュニケーション担当理事

徳岡 晃一郎



東京高輪病院 院長
関東地区担当理事・
北海道東北地区担当理事

木村 健二郎



近畿四国地区担当理事

増山 理

新任理事の挨拶

4月よりJCHO本部のIT担当理事を拝命いたしました。

これまでIT企業で、電子カルテや地域医療ネットワークなど、ヘルスケア分野のソリューションビジネスに従事してまいりました。

全国の医療機関に様々なソリューションやサービスを提供してきた経験を生かし、少しでもJCHOの皆様のお役に立てればと思っています。

また、JCHOが目指す地域完結型医療を推進するために、医療や介護の現場を支える情報システムを整備する事で、地域住民の皆様の期待にも応えていきたいと思っております。

一方で、情報システムのコストが病院経営を圧迫していることも確かです。

目標をしっかりと定めた上で、TCO (Total Cost of Ownership) を考慮したバランスの良いシステム投資を行っていく必要がありますし、健全な経営を支えるためのアプリケーションやデータの利活用にも目を向けていきたいと考えています。

良質な医療や介護を効率良く効果的に提供できるよう、また、働きやすい環境作りにむけて、現場の皆様へ寄り添えるIT部門を目指していきたいと思っております。

JCHOグループの最適なIT基盤確立に向け、微力ながら尽力したいと考えておりますので、皆様方のご指導、ご協力を宜しくお願い致します。



IT担当理事

さとう ひでのぶ
佐藤 秀暢



医療・看護・介護・地域包括
ケア担当理事

たなか さくら
田中 桜



北海道・東北地区担当理事

むらかみ えいいち
村上 栄一

4月から医療・看護・介護・地域包括ケア担当理事を務めております。出身は「うどん県」高松市で、2000年に滋賀医科大学を卒業し九州大学小児外科に入局し、臨床、研究、教育等に従事しました。2012年に厚生労働省に医系技官として着任し、難病対策、障害者施策、母子保健施策等を担当し、原子力規制庁に出向後、原子力災害時の医療体制整備や医療班長として危機管理等に従事しました。その後、環境省環境リスク評価室長としてエコチル調査の13歳以降の展開について検討会報告書を取りまとめました。5歳児の母でもあり日々綱渡りの毎日で、周りの方々のお蔭で業務に従事できていることを感謝いたします。

先日、医療安全の会議で久々に現場の様子を垣間見て、臨床に携わっていた頃の様々な記憶が蘇りました。ずいぶん昔ですがあらゆる規模の関連病院に日当直に行き、子どもから高齢者まで、急性期から慢性期まで患者さんを診ておりましたので、当時の経験をいかしつつ皆さまに寄り添い、JCHO病院が地域で必要とされる病院としてあり続けられるよう精進して参ります。皆さまの声を伺うためにできるだけ病院に足を運ばせていただきたく思います。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

4月より北海道東北地区の担当理事を拝命しました仙台病院の村上栄一です。仙台病院の院長としては4年目に入ります。同地区には北海道の3病院と東北の4病院を合わせた7病院があります。地区内には、少ない医師数の中で院長の“病院を守っていくという執念”にも似た努力によって何とか持ちこたえている病院もあります。院長が倒れたら一気に経営破綻するのではと危惧しているところですが。このような病院の涙ぐましい努力をきちっと評価して頂けるように、本部にも働きかけながら、病院間の交流がスムーズに行われるお手伝いできればと考えております。

各病院の置かれた地域の状況は異なり、一律の方向性では無理がありますが、チョット視点を変えて、知恵を絞れば、アドバンテージになりうるものが見えてくるのではと思っています。敬愛するホンダの創始者・故本田宗一郎氏の「需要がそこにあるのではない。我々が需要を作り出すのだ!」との言葉は医療界にも通じるものだと思います。そして、それが“地域に無くてはならない病院”への道でもあると確信しております。和気あいあいとエネルギー溢れる地区をめざし、微力ながら努力して参りますので、宜しくお願い申し上げます。

2022年4月に関東地区の地区理事を拝命いたしました埼玉メディカルセンターの吉田武史と申します。今年度は、尾身茂前理事長が退任されたあと4月より山本修一新理事長が就任され、JCHOも新たなスタートを迎えました。今年、コロナウイルスの感染が去った後の病院経営をコロナ前に戻すことを各病院は真剣に考えなくてはいけない時期に来ていると思います。現状では、国、自治体からの補助金で収支が何とか黒字の病院が多いですが、コロナ専門病棟、空床が一般床に戻り、入院患者さんで病床をうめること、減少した外来患者さんを増やすことが課題です。また、診療報酬改定により地域包括ケア病棟の条件が厳しくなりました。これも早急な対応が必要です。各病院の現状を院長先生にお聞きして対策を立てていきたいと思えます。関東地区は16病院あり地区としては全国で1番病院数が多く、大病院も多いです。今までは、木村健二郎前理事長が大変うまくまとめており、自分にどれほどできるか不安ですが、皆様のお力をお借りして頑張っていきたいと思えます。今後ともご指導、ご鞭撻よろしく願いいたします。



関東地区担当理事

よしだ たけし
吉田 武史

このたび4月1日付けで、近畿四国地区担当理事を拝命いたしました。私は2020年4月に大阪病院に院長として赴任しJCHOの一員となりました。新型コロナウイルス感染拡大の中での赴任で、この2年間、全国屈指の感染状況の大阪市内で新型コロナの対応に追われました。

一方で、大阪病院は予想以上に深刻な問題を抱えています。その舵取りをし、職員の意識や行動を変え、実績改善を計っているところです。まだJCHOや近畿四国地区の11病院を十分に理解しているとは言えない状態ではありますが、地区担当理事を拝命した以上は、JCHOの発展に少しでも寄与できるよう微力ながら力を尽くす所存です。

近畿四国地区の病院を見ますと、それぞれに課題があるようです。同じ地域医療に貢献と言っても、病院の規模も、提供する医療も、内部環境・外部環境も異なります。JCHOの各病院が、地域の期待に応え、安心して暮らせる地域づくりに貢献するには、組織間・組織内のコミュニケーションとそれぞれの状況に応じた新しい医療ニーズの開拓が必要になります。皆様の忌憚のないご意見を伺い、一緒に考え、歩んで参りたいと思えます。



近畿四国地区担当理事

にしだ としろう
西田 俊朗

新任院長の挨拶



病院長 5ヶ所目です

千葉病院
うちの なおき
内野 直樹

4月1日付で千葉病院長を拝命しました。自身5か所目の病院長となります。「辞める辞める詐欺」のように何時までも無為徒食で禄を食っていますが、多少でもお役に立ちたいと思います。職員が働きやすい職場、誇りを持てる職場を作れたら病院は自然に良くなって自立経営と医療の質が両立出来るものと確信します。

以前から申し上げていますように「老害」という事実は確実に存在しますし、「蛇蝎のごとく忌み嫌われて」という言葉にも真実があります。皆様におかれましては今しばらく私の存在をお許し願いたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



建替えに向けて 職員一丸となって

星ヶ丘医療センター
ほその のぼる
細野 昇

4年前に大阪病院より整形外科部長として異動し、このたび院長を拝命した細野 昇です。当院は前身の星ヶ丘厚生年金病院時代から地域との絆が深く、地域住民、診療所、病院、施設、行政から厚い信頼を得てきました。築50年が経つ本館は、耐震基準を満たしておらず建替えが急務となっています。そのためには、地域医療・地域包括ケアの要として良質な医療を提供しつつ収益状況を改善する必要があります。建替えに向けて職員一丸となって邁進してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



地域の医療ニーズに 機動的に対応

山梨病院
さとう ただし
佐藤 公

山梨病院院長就任に際してご挨拶申し上げます。2020年4月に前任の山梨大学医学部消化器内科病院教授・光学医療診療部部长より、消化器病センター長、院長補佐として赴任し、以後消化器領域を中心とした診療に従事してまいりました。当院では新型コロナウイルス感染が拡がる中、診療以外にもワクチン接種から健康診断業務、県内外の医療機関への新型コロナウイルス感染症診療の応援まで、病院職員が一丸となって対応しています。今後も質の高い医療を提供するとともに、地域の医療ニーズに機動的に対応できる組織でありたいと考えます。どうぞご指導の程お願い申し上げます。



健診部門の整備により 未病にも対応

東京高輪病院
やまもと じゅんじ
山本 順司

この度、東京高輪病院長に着任いたしました。東京大学昭和56年卒業、専門は消化器外科（肝胆膵）です。当院は前院長指揮のもと、高輪地区で「求められる医療」を迫り成長してきました。高度専門医療センター、大学附属病院へのアクセスが良いため、地域包括ケア病床を備え、医療連携・患者支援センター、訪問看護ステーションを設置することで、大規模総合病院との後方連携と周辺の診療所や介護施設との相互連携を通して、地域医療に貢献してきました。大規模再開発など区中央部での人口増が予想される地区に立地することを踏まえ、健診部門の整備を行い、「未病」の観点からも地域にさらに貢献してまいりたいと考えております。また、職員が働き甲斐を感じられる組織を目指しております。今後ともご指導、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



地域基幹病院として 安全・安心な医療を

三島総合病院
まえだ まさと
前田 正人

静岡県は医療的に過疎地で、当院のある東部地域においてはさらに顕著です。当院は中小規模の病院ではありますが地域の基幹病院として近隣の医師会・大規模病院さらには行政とも連携を取りながら安全・安心な医療を提供できるよう努めてまいります。加えて多職種の連携を密にして説明責任も果たしながら地域から信頼される病院を目指していくつもりです。また包括ケア病棟・老健施設及び健診センターも含めて健全な運営と共に安定した経営を図りたいと考えています。引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。



医療圏唯一の 公的基幹病院としての 責任

福井勝山総合病院
すとう ひろゆき
須藤 弘之

このたび、福井勝山総合病院の院長を拝命した須藤です。私は6年前、福井大学医学部消化器内科より副院長として赴任し、内視鏡検査・治療を中心に消化器内科診療を充実させるとともに、ここ2年はICDとして新型コロナウイルス感染対策を統括して参りました。奥越医療圏唯一の公的基幹病院かつ感染症指定医療機関として、最大限の感染対策を講じつつ、疾病予防から急性期医療、回復期リハビリ、介護、在宅医療まで、住民の方々に良質で安心な医療・介護を提供し、福井県の医療のさらなる発展のため全力を尽くす所存です。今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



2023年度末の 新病院開設に向けて

桜ヶ丘病院
もり のりこ
森 典子

桜ヶ丘病院は2022年2月に発生しましたコロナの大クラスターで名をはせてしまいましたのでご存知かと思いますが、その折にはJCHOの各病院からの応援をいただき、感謝するとともに、JCHOという組織の大きさを実感しています。このコロナ大禍の後、通常医療の巻き返しが道半ばの状況で、内野直樹前院長からバトンをいただきました。新病院（清水さくら病院）の開設を2023年度末に控え、新米院長ではありますが、経営・運営に頑張っており取り組んでいきます。



京都府立医大との 強固な連携のもとに

京都鞍馬口医療センター
みずの としき
水野 敏樹

2022年4月院長に就任しました水野敏樹です。京都鞍馬口医療センターは鞍馬口の病院として地域の方々から信頼され、愛されてきた病院です。これまでの伝統を引き継ぎ、安心の地域医療を提供できる病院を継続したいと存じます。2025年の超高齢化社会を目の前にして、高齢化による様々な医療ニーズの変化が生じ、新たな新型コロナウイルス感染など新たな問題も生じてきています。包括協定を提携した京都府立医科大学とも連携し、これら新しい問題にも常に対応し、地域の皆様のニーズに答えられる病院でありたいと存じます。

「役職者としてのあるべき姿」

～ 部署間の関係性向上の場の創成～

大和郡山病院
診療放射線技師長 中尾 哲

大和郡山病院で、すべての職員を対象に業務改善提案を募集したところ、80を超える提案が集まりました。その中で、久門看護部長と共に提案した「職長を含めた各部署の役職者とのチームワーキング」が取り組むべき課題として選ばれました。

このテーマで取り組もうとした理由は、経営改善・組織改革には部署間の連携と役職者の役割遂行に関係があると考えていたからです。今回の提案制度を活用して、経営改善に向けて、役職者全員がリーダーシップを発揮して取り組むことを目標に掲げました。

チームワーキングの目的

組織とは「共通の目標に向かって協働するチーム」と言われます。

病院は専門性に優れた多職種で構成されていることで、患者を中心としたチーム医療への力を発揮することが可能になります。その反面、各職種の専門性があるために、自分たちの権限や利害に固執する傾向があります。意見や感情の衝突や対立が生じて協力関係に至らず、組織全体の利益や効率性が損なわれるような問題も発生します。

その原因のひとつとして、それぞれの「思い」はあるが、職種間や部署間のつながりを構築するための「場」が存在しないということが考えられます。「場」がないことで、「自分の思い」や「相手の思い」を理解するための機会が失われ、結果のみに翻弄されてしまいます。協働そのものから遠ざかり、結果に対して他責や他人事であり続けることで「対立」が生まれてしまいます。このような負の連鎖を断ち切る必要があると考えます。

今回のチームワーキングの目的は、役職者や部署間における関係性の質を向上させ、「役職者としてのあるべき姿」を全員で積極的に話し合うことです。

チームメンバーの構成

医師を除き、全ての職種において役職を与えられている51名を対象とし、メンバーが発言しやすいように、異なる職種を分散させ5～6名のチームに編成しています。

「いい職場・いい環境・いい人間関係を構築するには」をテーマとし、取り組むべき課題についてコミュニケーションと役職者としての2つの観点からチームワーキングを行いました。

注意点として、相手の考えを否定しないこと、相手の話に耳を傾けること、普段話す機会がないメンバーと自分自身の思いや提案などを活発に対話してもらうことを条件としました。

第1回目

現況の把握と課題の発見



組織に属する上で、私たちはさまざまな場面で対立することがあります。それらはコミュニケーションの問題とも指摘されることが多いですが、古くから継続される習慣や組織文化やしらみといった負の側面が強く現れていることが少なからずあると考えます。

組織や組織管理についての講義（筆者）を行い、ファシリテーター（看護部長）を交えながら、テーマに沿ってワーキングを行いました。参加者からは「他職種の方と話ができてよかった」などの意見が多くありました。異なる職種との対話によって、今まで気付いていない問題等を発見するなど、各チームが熱心に取り組み、病院の課題について多くの視点から有益な意見が出されました。



第2回目

意思決定

前回のチームワーキングで、各チームから出された病院の課題について、現状とあるべき姿とのギャップ、あるべき姿に近づけるためのマネジメント能力、そこへ導くためのリーダーシップについて講義を行いました。

課題として挙げられた一部には、他責や他人事となるようなネガティブな意見が含まれたものもありましたが、これらを共有することによってメンバーが内省するきっかけとなり、改めて役職者が求められる責務や役割、やるべき課題が認識できたのではないかと考えます。前回以上に、積極的な対話や課題の設定について熱く意見を述べ合っていたことが印象的でした。



今後に向けて

役職者は経営層の意思決定を支える立場でもあり、経営資源(ヒト・モノ・カネ・情報)を適切に管理することが求められます。特に「ヒト」のマネジメントは、最も大切な経営資源でもあり、組織の目指す方向へ向かうには「ヒト」の働きは必要不可欠です。

セクショナリズムといった壁を壊し、今までとは異なる新しいつながりが私達には必要と考えます。

役職者チームワーキングによって、「対立」から「共生」、「議論」から「対話」に変化し、内外環境の変化に適應できる組織、

第3回目

発表

各グループの取り組むべき課題について、コロナ禍でもありポスター形式で掲示することとしました。職員のすべてに知ってもらいたい、そして職員の皆さんが少しでも協力してもらえればと考え、会議室に掲示しました。

各チームのモチベーション向上のために、発表内容について職員からの評価を頂けるように工夫し、順位付けではなく、各チームの発表内容にふさわしい名前の賞を贈り、表彰することにしました。既に取り組んでいるチームもあれば、これから取り組むチームもあります。

今、皆さんがこの記事を読んでいる頃には、大きな成果が表れているチームもあるかもしれません。継続することは大事なことです。目標を見失うことがないようにチームで取り組んでいけたらと考えます。



全員がリーダーシップを執れる組織、互いに必要とする組織へ進化し続けていきたいと考えます。

そして「関係性の質」を改善することによって、「結果の質」に翻弄されない、新しい組織文化が構築されることを期待します。

これからも「場」を創ることで、経営改善だけでなく、未来に向けた新しい創造や持続可能な組織につながることを楽しみにしています。

1. 「骨粗鬆症センター」の立ち上げについて

船橋中央病院 整形外科医長 山下 正臣

当院では2018年4月より大腿骨近位部骨折と椎体骨折で入院した方に骨粗鬆症リエゾンサービス (OLS) を開始しました。職員が業務に慣れた2020年4月より上肢の骨折(橈骨遠位と上腕骨近位)を追加し、4つの骨折を対象に行っております。OLSとは、日本骨粗鬆症学会の提唱した概念で骨折患者のみでなく一次骨折予防も活動に含まれ、当院での骨折患者に対する活動より少し広い意味になります。実際、我々の活動は、脆弱性骨折に対し「次の骨折」を予防する二次骨折予防となり1990年代に英国で開始された骨折リエゾンサービス (Fracture Liaison Services: FLS、狭義のOLS) になります。

2021年度初め院長面談の際に、山口院長から国際骨粗鬆症財団よりGold levelの評価を受けていることを受け、「骨粗鬆症センター」の立ち上げ準備をするよう仰せつかりましたので、「骨粗鬆症リエゾン委員会」に持ち帰り準備を開始しました。

センターでは、通常の整形外科診療と差別化を図るため、二次骨折予防でなく「最初の骨折」を防ぐ一次骨折予防を目的とした場所にしたいと考えました。何故なら、センターで骨折前の骨粗鬆症患者に対し介入することで、病院全体として日本骨粗鬆症学会の提唱した広義のOLSを目指したからです。

当センターでは、OLSの経験を活かし、多職種で連携しサービス提供を行います。医師の診察において、骨密度、血液、筋量を評価し治療方針を決定し、口腔外科で骨粗鬆症治療の際に問題となる口腔衛生状態を評価します。骨粗鬆症治療薬は数多くありますが、単に薬を服用するだけでは不十分ですので、食事や運動習慣などを見直す契機になるよう、薬と食事(栄養)、運動についての集団教室を行います。以上を、骨粗鬆症センター初回受診時の内容としています。さらに必要と判断された方には個別に服薬指導、栄養指導、運動指導を行います。

対象としては、一次予防ですので「骨折のない方」になり、閉経後早期の女性や骨粗鬆症未治療または中断したままの方、ステロイドを服用している方など多岐にわたります。特に、内科や婦人科には通っているけど、「わざわざ整形に行つてまで・・・」と思っているような方にぜひ一度お越しいただければと思っております。

センターでは、診断と教室が済み、治療方針を決定し初回投薬で副作用など問題がないことを確認後、紹介元の施設に治療継続をお願いすることにしてあります。治療を行い半年くらいの経過で効果判定ができればと考えております。

なお、センターの受診は「教室」の定員もありますので完全予約・紹介制としています。また、センターに受診された方が骨折した場合には、整形外科で診療を承ります。

まだ、始めて間もない上、近隣施設への案内も不十分であるため「骨粗鬆症センター」の認知度が低く、今後はいろいろな形で広めていければと考えております。

骨粗鬆症センター開設時の近隣施設への案内に同封したポスター(縮小版)

2.

薬剤部長会議 (TV会議)を開催して

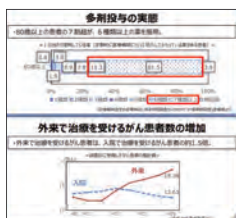
～薬剤師を取り巻く

環境変化に対応していく～



東京高輪病院薬剤部長
本部医療部医療課薬事専門職併任 **片山 歳也**

現在、JCHO薬剤師は医療機関におけるチーム医療の進展、地域包括ケアシステムの一員としてのさらなる対応が求められています。このような変化に対応するには、薬剤師の資質向上の推進や薬剤師の地域偏在に伴う薬剤師確保などの課題解決が挙げられ、これらの課題解決に向けて、2021年12月に薬剤部長会議を開催したので報告します。



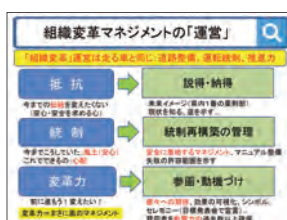
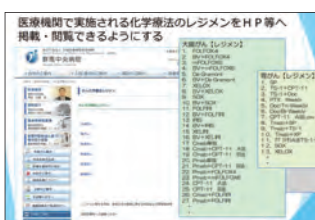
これからの薬剤師・薬局と製薬業界にはこうなって欲しいと思います(私見です)

【患者さん】には
患者さんが安心してより良く医薬品を使えるようになるための「くすりのアドバイザー」になって欲しいと思います。
(どこにいても)薬剤師も創業・育業の重要な担い手です!

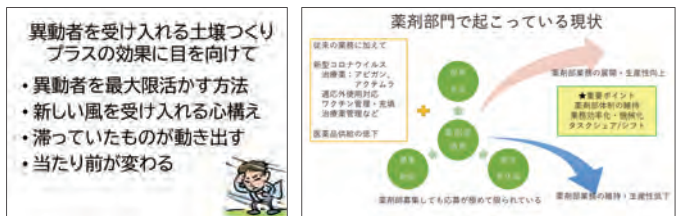
【製薬会社】には
分野を超えたコラボレーションも含めて「創薬の製品を合理的コストで実用化」して欲しいと思います。
そして、全てのステークホルダーが協力して「患者さんの期待に応える医療ソリューション」を構築して欲しいと思います。

日本製薬工業協会専務理事森和彦先生を招聘し、『薬機法改正を踏まえJCHO病院薬剤師に期待すること』では、優れた医薬品、医療機器等の安全・迅速・効率的な提供について、薬剤師が取り組むべき事項を学ぶことができました。

本部医療課薬事専門職片山からは、本部組織における医療課薬事専門職配置に関することや毎月の薬事専門職Web会議の報告があり、薬事専門職同士の情報共有の機会ができたことが報告されました。



薬剤部長のマネジメント能力向上のために、外来がん化学療法に関する地域連携(群馬中央病院薬剤部長鈴木氏)、医薬品情報の活用(熊本総合病院薬剤部長藤井氏)の発表では、地域連携推進と医薬品情報提供活動を見直す機会となりました。



薬剤師の地域偏在、病院薬剤師不足といった問題解決に向けて、各地区事務所薬事専門職の薬剤師募集に関する発表(北海道東北:井藤氏、関東:伊藤氏、東海北陸:西上氏、近畿四国:辻川氏、九州:藤井氏)を行い、各地区における薬剤師確保における課題を共有するとともに、今後の各地区における対策のヒントとなりました。

最後に全国薬剤部長会議開催にご理解を頂きました全国の薬剤師部長の皆様、終始、支援頂きました本部医療部の皆様にも感謝申し上げます。

北海道病院におけるYouTubeの活用事例について

北海道病院
総務企画課 経営企画係長 土田 駿介

▶ 背景

当院では、地域講演会として職員が地域住民の方々に対して健康にまつわる話を近隣の公民館などで毎月開催していました。地域講演会は長年行われ、地域住民の方々にも親しまれてきましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、休止することになりました。そこで地域講演会と同じような機会を作れないかとの思いで、2021年3月に病院公式YouTube「JCHO北海道病院 健康ライフちゃんねる」を開設しました。



▶ 内容

動画の内容については、普段からよく耳にする疾患の解説や予防方法、健康増進につながる情報など幅広く身近なテーマを扱っています。専門用語を多用せず、わかりやすい言葉とイラストを活用して動画を作成することを心がけています。また一つの動画につき、5分～15分程度のコンパクトなものにすることで、より気軽に多くの方に見てもらえるような動画を作成しています。



▶ 最後に

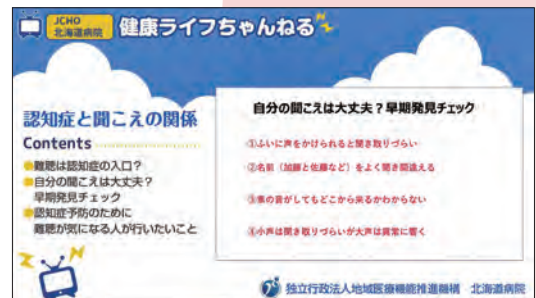
院内の先生方をはじめとした職員の皆様に快くご協力をいただき、動画作成を行うことが出来ました。今後も職種の垣根を超えて動画を作成し、地域住民の方々に役立つための情報を発信していきます。

▶ 活用事例

作成した動画については、YouTubeに配信するだけでなく、様々な活用方法を検討しています。たとえば実際に活用している方法としては、外来待合時間対策として、患者さんへチラシを渡し、空き時間に視聴してもらっています。

普段YouTubeを視聴しない方にも見てもらえるような取り組みとして、外来待合室のテレビで流しています。また病院ホームページにも配信している動画を視聴できる専用のページを作成し、シリーズ毎にまとめることにより、気になるテーマについて視聴しやすくしています。

これらの取り組みについては、患者さんの病気への理解が深まり、職員の説明が行いやすくなり、負担軽減にもつながっていくのではないかと考えています。



▶ 今後の展望

今後は、動画の再生回数を上げるための取り組みを行っていきたいと考えています。病院広報誌（JCHO北海道病院だより）や病院公式InstagramにもYouTubeの情報を掲載し、広く知ってもらう取り組みも重要であると考えています。まだまだ試行錯誤の段階ではありますが、当院と同様にYouTubeを活用している病院や活用を検討している病院等と、より多くの方に視聴してもらえるような取り組みについて意見交換等ができれば幸いです。

今後の配信内容について、身近なテーマでもあるアルコール依存に関する動画のシリーズの配信を予定しています。ご興味のある方はこちらも是非ご覧ください。

JCHO北海道病院公式YouTube

「JCHO北海道病院 健康ライフちゃんねる」



大阪病院におけるYouTubeを利用した 医療者向け公開講座

大阪病院 統括診療部長 島田 幸造

我々大阪病院では、毎年1月の地域医療連絡会で、近隣の医療機関様向けに医療セミナーを行ってきました。しかし、Covid-19の感染拡大の影響を受けて2021年には開催を断念、医療機関様に当院の取り組みをお知らせする機会を失ってしまいました。その代替策として、2021年1月より統括診療部長指揮の下、地域連携室と医療情報室のスタッフが連携を取りながら、Webによる外部への情報発信をスタートしました。

当初はCisco社のWebex Meetingsを用いたライブ配信と、YouTubeによるアーカイブ放送の形をとっておりました。休診の近隣医療機関様が多い時間帯をターゲットに、木曜日の14時より20～30分の生配信及び同時録画、これを動画編集の後に、土・日の2日間でアーカイブ配信という流れを月に2回行っておりましたが、ライブ配信のリスクや演者となる医師の時間的制約を考慮し、2021年6月からは事前収録によるYouTube配信としました。

講座の内容については、当院の強みである経カテーテル大動脈弁置換術（通称TAVI）やコンピュータ・ロボット支援人工関節手術、乳がん・卵巣がんなどの女性疾患、小児科による子育て支援プログラムの紹介など、幅広い分野の医療機関様に興味を持ってもらえるよう検討しております。本講座は、対象が医療関係者ではあるものの、通常の学会発表とは異なり、専門外の分野の方も視聴することを想定した発表準備が必要となります。また、YouTubeへの投稿時には、動画の内容によって著作権侵害の警告や動画が削除されることもあるため、掲載資料には十分配慮する必要があります。このように、本取り組みには発表される各医師側の配慮・協力が特に重要となりますが、近隣医療機関様からは、「毎回視聴し、患者紹介の機会が増加した」とのお声や、「大阪病院さん、頑張っていますね」と新たな取り組みを始めたこと自体に評価をいただくこともあり、その成果を感じつつあるところです。

さらに当院では、2021年度よりLINE、Instagram、Facebookによる患者様向けの発信をスタートしました。将来的には、これらSNSによる広報と本取り組みのノウハウを組み合わせることで、一般患者様向けの健康講座・市民公開講座といった取り組みも可能であると考えています。

Covid-19惨禍を経験し、病院はただ患者様が来るのを待っていれば良かったこれまでの状況から、病院における広報の重要性は大きくなりました。1人でも多く地域の患者様に利用していただけるよう、大阪病院はこれからも様々な取り組みを行っていきたいと思います。

Contents		
第1回	最新の大腸がん治療～より患者様にやさしい治療を目指して	井出 義人 外科上消化器担当部長
第2回	上消化管外科の紹介～低侵襲から集学的治療まで	出村 公一 外科上消化器担当部長
第3回	心臓チームで取り組む経カテーテル大動脈弁置換術-TAVI	小笠原 延行 救急部診療部長 循環器内科診療部長
第4回	アブレーション治療の現場	三好 美和 循環器内科部長
第5回	急性期脳卒中の外科	奥村 有紀 脳神経外科部長
第6回	急性期脳神経疾患の診療	山下 和哉 脳神経内科部長
第7回	3D技術を使用した最新の人工関節置換術	岡本 泰典 整形外科部長
第8回	3D技術を用いた人工関節置換術	西川 昌幸 リウマチ科診療部長
第9回	遺精性大腸炎治療 update	日山 智史 消化器内科部長
第10回	当院の若手消化器内科医師の内視鏡（胆腫中心に）	澤村 真穂子 消化器内科部長
第11回	遺伝性乳がんについて	大谷 陽子 乳腺内分泌外科部長
第12回	遺伝性卵巣がん症候群	大八木 知史 産婦人科 部長
第13回	放射線科で行うIVR	北山 敬明 放射線診断科IVR担当部長
第14回	ピンポイントにある体幹部定位放射線治療	西多 俊幸 放射線治療科診療部長
第15回	小児科小細胞肺癌に対する縮小手術	岩崎 寛夫 呼吸器外科担当部長

JCHO大阪病院 公開医学講座

JCHO大阪病院では、各科の若手部長・医長らによる最新医学知識と当院での取り組みを、毎月2回、WEB上で無料配信しています。配信期間中はいつでもご覧いただけます。

2022年1月のテーマ 糖尿病治療とフットケア

第23回

糖尿病の合併症
"しめじ"と"えのき"について
～糖尿病腎症・糖尿病性腎臓病（DKD）を中心に～

配信期間 2022年1月13日（木）14時～1月16日（日）23時59分



糖尿病・内分泌内科診療部長
馬屋原 豊

第24回

JCHO大阪病院フットケア
チームの紹介

配信期間 2022年1月27日（木）14時～1月30日（日）23時59分



皮膚科診療部長
竹原 友貴

ご視聴方法 YouTube チャンネル名「JCHO大阪病院-医療機関向け」
URL: https://www.youtube.com/channel/UC_fah0JAUJxm7ddUohjiFAA

QRコード
1 を読取る

YouTube上の該当コン
テンツが再生されます

チャンネル登録していただく
次回からQRコードの読取り不要、
簡単に視聴いただけます

講座毎にメールで
URLを受け取る

メールでの案内をご希望の方は
メールでお申し出ください
chiki@osaka.jcho.go.jp

タイトル「公開講座案内書」
本文「医師様宛て、ご氏名」
とご記入ください

来月の配信予定

バックナンバー配信予定

配信日時・コンテンツについては
後日お知らせいたします。

JCHO大阪病院公式facebook



北海道東北地区

北海道	北海道病院	062-8618	北海道札幌市豊平区中の島1条 8-3-18	Tel. 011-831-5151
	札幌北辰病院	004-8618	北海道札幌市厚別区厚別中央 2条 6-2-1	Tel. 011-893-3000
	登別病院	059-0598	北海道登別市登別東町 3-10-22	Tel. 0143-80-1115
宮城	仙台病院	981-3281	宮城県仙台市泉区紫山 2-1-1	Tel. 022-378-9111
	仙台南病院	981-1103	宮城県仙台市太白区中田町字前沖 143	Tel. 022-306-1711
秋田	秋田病院	016-0851	秋田県能代市緑町 5-22	Tel. 0185-52-3271
福島	二本松病院	964-8501	福島県二本松市成田町 1-553	Tel. 0243-23-1231

関東地区

栃木	うつのみや病院	321-0143	栃木県宇都宮市南高砂町 11-17	Tel. 028-653-1001
群馬	群馬中央病院	371-0025	群馬県前橋市紅雲町 1-7-13	Tel. 027-221-8165
埼玉	さいたま北部医療センター	331-8625	埼玉県さいたま市北区宮原町 1-851	Tel. 048-663-1671
	埼玉メディカルセンター	330-0074	埼玉県さいたま市浦和区北浦和 4-9-3	Tel. 048-832-4951
千葉	千葉病院	260-8710	千葉県千葉市中央区仁戸名町 682	Tel. 043-261-2211
	船橋中央病院	273-8556	千葉県船橋市海神 6-13-10	Tel. 047-433-2111
東京	東京高輪病院	108-8606	東京都港区高輪 3-10-11	Tel. 03-3443-9191
	東京新宿メディカルセンター	162-8543	東京都新宿区津久戸町 5-1	Tel. 03-3269-8111
	東京山手メディカルセンター	169-0073	東京都新宿区百人町 3-22-1	Tel. 03-3364-0251
	東京城東病院	136-0071	東京都江東区亀戸 9-13-1	Tel. 03-3685-1431
	東京蒲田医療センター	144-0035	東京都大田区南蒲田 2-19-2	Tel. 03-3738-8221
神奈川	横浜中央病院	231-8553	神奈川県横浜市中区山下町 268	Tel. 045-641-1921
	横浜保土ヶ谷中央病院	240-8585	神奈川県横浜市保土ヶ谷区釜台町 43-1	Tel. 045-331-1251
	相模野病院	252-0206	神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-2-30	Tel. 042-752-2025
	湯河原病院	259-0396	神奈川県下都賀区湯河原町中央 2-21-6	Tel. 0465-63-2211
山梨	山梨病院	400-0025	山梨県甲府市朝日 3-11-16	Tel. 055-252-8831

東海北陸地区

富山	高岡ふしき病院	933-0115	富山県高岡市伏木古府元町 8-5	Tel. 0766-44-1181
石川	金沢病院	920-8610	石川県金沢市沖町ハ 15	Tel. 076-252-2200
福井	福井勝山総合病院	911-8558	福井県勝山市長山町 2-6-21	Tel. 0779-88-0350
	若狭高浜病院	919-2293	福井県大飯郡高浜町宮崎 87-14-2	Tel. 0770-72-0880
岐阜	可児とうのう病院	509-0206	岐阜県可児市土田 1221 番地 5	Tel. 0574-25-3113
静岡	桜ヶ丘病院	424-8601	静岡県静岡市清水区桜ヶ丘町 13-23	Tel. 054-353-5311
	三島総合病院	411-0801	静岡県三島市谷田字藤久保 2276	Tel. 055-975-3031
愛知	中京病院	457-8510	愛知県名古屋市中区三栄 1-1-10	Tel. 052-691-7151
三重	四日市羽津医療センター	510-0016	三重県四日市市羽津山町 10-8	Tel. 059-331-2000

近畿四国地区

滋賀	滋賀病院	520-0846	滋賀県大津市富士見台 16-1	Tel. 077-537-3101
京都	京都鞍馬口医療センター	603-8151	京都府京都市北区小山下総町 27	Tel. 075-441-6101
大阪	大阪病院	553-0003	大阪府大阪市福島区福島 4-2-78	Tel. 06-6441-5451
	大阪みなと中央病院	552-0003	大阪府大阪市港区磯路 1-7-1	Tel. 06-6572-5721
	星ヶ丘医療センター	573-8511	大阪府枚方市星丘 4-8-1	Tel. 072-840-2641
兵庫	神戸中央病院	651-1145	兵庫県神戸市北区徳山町 2-1-1	Tel. 078-594-2211
奈良	大和郡山病院	639-1013	奈良県大和郡山市朝日町 1-62	Tel. 0743-53-1111
島根	玉造病院	699-0293	島根県松江市玉湯町湯町 1-2	Tel. 0852-62-1560
香川	りつりん病院	760-0073	香川県高松市栗林町 3-5-9	Tel. 087-862-3171
愛媛	宇和島病院	798-0053	愛媛県宇和島市賀古町 2-1-37	Tel. 0895-22-5616
高知	高知西病院	780-8040	高知県高知市神田 317-12	Tel. 088-843-1501

九州地区

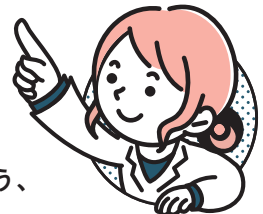
山口	下関医療センター	750-0061	山口県下関市上新地町 3-3-8	Tel. 083-231-5811
	徳山中央病院	745-8522	山口県周南市孝田町 1-1	Tel. 0834-28-4411
福岡	九州病院	806-8501	福岡県北九州市八幡西区岸の浦 1-8-1	Tel. 093-641-5111
	久留米総合病院	830-0013	福岡県久留米市榑原町 21	Tel. 0942-33-1211
	福岡ゆたか中央病院	822-0001	福岡県直方市大字感田 523-5	Tel. 0949-26-2311
佐賀	佐賀中部病院	849-8522	佐賀県佐賀市兵庫南 3-8-1	Tel. 0952-28-5311
長崎	松浦中央病院	859-4594	長崎県松浦市志佐町浦免 856-1	Tel. 0956-72-3300
	諫早総合病院	854-8501	長崎県諫早市永昌東町 24-1	Tel. 0957-22-1380
熊本	熊本総合病院	866-8660	熊本県八代市通町 10-10	Tel. 0965-32-7111
	人吉医療センター	868-8555	熊本県人吉市老神町 35	Tel. 0966-22-2191
	天草中央総合病院	863-0033	熊本県天草市東町 101	Tel. 0969-22-0011
大分	南海医療センター	876-0857	大分県佐伯市常盤西町 7-8	Tel. 0972-22-0547
	湯布院病院	879-5193	大分県由布市湯布院町川南252	Tel. 0977-84-3171
宮崎	宮崎江南病院	880-8585	宮崎県宮崎市大坪西 1-2-1	Tel. 0985-51-7575

JCHO「理念」

我々全国ネットのJCHOは
地域の住民、行政、関係機関と連携し
地域医療の改革を進め
安心して暮らせる地域づくりに貢献します



JCHOニュースはこれまでのデザインから
リニューアルしました!



心機一転、JCHO職員の皆様にさまざまな情報をお届けできるよう、
広報文書課一丸となり頑張っております。
また、原稿は常に募集しておりますので、掲載してほしい取組みなどありましたら、
いつでも広報文書課までご連絡ください。
今後ともJCHOニュースをよろしくご依頼申し上げます。

地区事務所

- 本部 〒108-8583 東京都港区高輪3-22-12 3F
- 北海道東北地区事務所 〒981-3281 宮城県仙台市泉区紫山2-1-1 仙台病院 3F
- 関東地区事務所 〒108-0074 東京都港区高輪3-22-12 1F
- 東海北陸地区事務所 〒457-0866 愛知県名古屋市中区三栄1-1-10 中京病院健康管理センター内
- 近畿四国地区事務所 〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島4-2-78 大阪病院別館 3F
- 九州地区事務所 〒866-8662 熊本県八代市松江城町 2-26 熊本総合病院健康管理センター棟 4F

JCHOニュースアーカイブ
URL
https://www.jcho.go.jp/jchonews_archive/

